

手順

Engine Starter Switch

エンジンスタートスイッチ

スイッチポン! でエンジンスタートのクールな操作感。電気系の配線が必要なためビギナーだとDIYの難度は高いが、作業が終わって作動したときの達成感と満足度は格別。ブルーに光るボタンが車内で映える!



1 ハンドル回りのパネルを外す
キースイッチ裏の配線を調べる必要があるため、パネルを外してむき出しにする。隠しネジの位置がわからないときは整備マニュアルを参考に



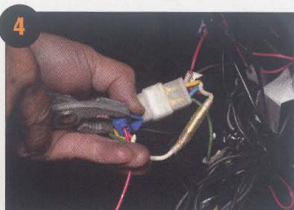
3 スイッチカバーに穴を開ける
スタータースイッチを埋め込む16mmφの穴を開ける。ドリルかハンダこてで外周に沿って小穴を開け、ニッパーと棒ヤスリで仕上げよう



2 スイッチに流れる電圧を調べる
取説に従い配線方法を決め、テスターを使ってスイッチのポジション別に12Vが流れる端子を探す。今回はハーネスを使わず直接配線した



5 スイッチをパネルに取り付ける
穴を開けたカバーにスイッチを取り付けて、①ではがしたパネルに戻す。裏から出ている3本のコードはリレーBOXのギボシ端子に接続だ



4 スターター電源から配線を分岐
上の②で調べたスターター (ST) 電源のケーブルをエレクトロタップで分岐させ、本機のリレーBOXの配線とつなぐ。取説に従い慎重に!



ビボット
エンジンスタートスイッチ ESS-L
9345円
☎ビボット ☎0263-46-5901

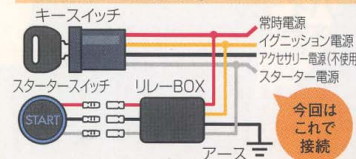
F1風のスタートボタンでエンジンの始動ができるおしゃれなスイッチ。エンジンを止めた待機状態ではブルーのLEDがゆっくり点滅し、威嚇&防犯効果が期待できるほかドレスアップの楽しみもプラス。エンジン始動はキー併用に加えて、スタータースイッチのみで行う方法も選べる。車種によっては専用ハーネス使用で簡単配線も可能だ

難易度	作業時間	必要な工具&材料
上級	180分~	ドライバー、レンチ、プライヤー またはラジオペンチ、テスター (検電テスターは不可)、ニッパー、ドリルまたはハンダこて、棒ヤスリ、その他

また、スイッチを埋め込む穴を開けるにはドリルかハンダこてが必要で、径を合わせるために棒ヤスリも用意。スイッチまわりは目立つ場所だけに、キズやゆがみにも注意したい。

の装置、イグニッション電源から直接配線するが、または専用ハーネスによりケーブルを分岐するかで作業の難易度が違う。今回は前者の方法で取り付けたため手間がかかったが、クルマによっては専用ハーネス使用で容易に装着が可能。ただし、DIYではクルマの電気系に精通していることが望ましい。電氣系の作業以外でネックとなるのがハンドル下のパネルの外し方。隠しネジやクリップの位置がわからないときは、ディーラーで整備マニュアルのコピーをもらうというだろう。

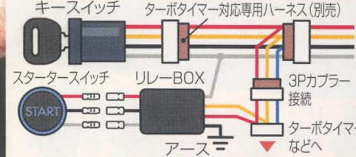
●直接配線による接続(ハーネス不使用)



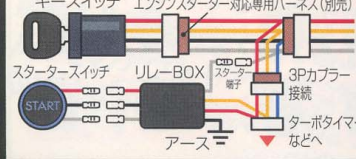
←配線方法はハーネスのタイプ別に3種類。今回は専用ハーネスを使わず直接配線したが、その他の方法なら短時間で作業も可能だ

→装着後はキーをONにした状態でスイッチを押せばエンジン始動。また、キーを使わずスイッチのみで始動する配線方法も選べる

●スターター端子分岐のない専用ハーネスによる接続



●スターター端子分岐のある専用ハーネスによる接続



純正風でスマートなデザインが 防犯効果も高い点滅式照明付き エンジンスタートスイッチ!